

一歩、二歩、^{さんぼじゆく}山歩塾
 ～緑の山歩塾スタート～

東北森林管理局指導普及課 ○福 司 一 久
 石 川 キヨ子

1 はじめに

当局では、森林に対する国民の要請が多様化している中で、平成3年度から森林空間を利用した森林とのふれあいの場を提供し、森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶ喜びを味わうことを目的とする森林ふれあい推進事業「森林倶楽部」（愛称）を平成18年度まで実施してきました。

しかし、森林倶楽部が発足して20年近くが経過し、①事業規模が縮小してきている、②事務・業務の一層の簡素化、減量化を図る、③機動的・効率的に事業を推進する必要がある、等から関係通達の一部が改正され、新たな森林ふれあい推進事業「緑の山歩塾」（愛称）を実施してきましたので、その取り組みについて発表します。

2 これまでの森林倶楽部

森林倶楽部は会員制の倶楽部で、年会費は個人5,000円、家族（2名以上）10,000円となっています。イベントは年3～6回実施し、内容は登山、森林浴、特徴的な森林の見学、高山植物観賞等が中心でした。また、希望する者は全員参加することができ、イベント参加費は1回につき1人4,000円～5,000円でした。

会員数は表1のとおりで、ピーク時の平成8年度は600名を超える方々が会員登録していました。

[表1] 森林倶楽部会員数の推移

年度	局	青 森	秋 田	計	年度	局	青 森	秋 田	計
H 3		31	70	101	H 11		213	155	368
H 4		85	190	275	H 12		183	148	331
H 5		160	228	388	H 13		173	148	321
H 6		224	252	476	H 14		158	142	300
H 7		213	227	440	H 15		139	149	288
H 8		218	384	602	H 16				245
H 9		221	344	565	H 17				183
H 10		201	258	459	H 18				173

※平成16年度以降は東北森林管理局として対応

3 緑の山歩塾の実施

このような形で実施してきた森林倶楽部は、①会員制（加入者方式）を廃止、②「森林倶楽部」の愛称を使用しない、という方向となったものの、森林とのふれあいの場の提供については、その重要性に変わりがないことからイベント毎の参加者募集方式に切り替

えて、局の実態に合わせて行うこととなりました。

そこで、国有林や森林の持つイメージの「緑」と、山を歩くことで何かを学んでもらおうという想いを込めて「緑の山歩塾」と名付け、当面の目標として、①森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶ喜びを味わってもらうことはもとより、当局が行っている各種施策（施業、事業等）を紹介、見学しながら国有林について知ってもらう、②リピーターを大切にしながら、さらに新しい参加者（国有林の応援団）の掘り起こしに努める、こととしました。

そして今年度は、表2のとおり5回のイベントを計画・実施しました。

〔表2〕森林ふれあい推進事業（愛称：緑の山歩塾）の実施計画・結果

回数	イベント名	実施月日・場所	イベント内容	募集人員	参加人数
1	新緑の湯殿山麓「月山ブナ林施業公園」散策 (ブナ林施業地)	6月2日 (土) 山形県 鶴岡市	六十里越街道沿いの月山ブナ林施業公園内を散策し、森林施業等を学ぶとともに、新緑のブナ林で森の息吹を体感する。 さらに、田俣地区にある「多層民家」を見学し、昔の生活風景にふれる。	秋田発 40名 山形発 40名 計80名	36名 18名 計54名
2	早池峰山の「ハヤチネウスユキソウ」を訪ねて (森林生態系保護地域)	7月7日 (土) 岩手県 遠野市	早池峰山周辺森林生態系保護地域の中心で、岩手県屈指の高峰早池峰山に登り、初夏に咲く高山植物「ハヤチネウスユキソウ」をはじめとする数々の高山植物を観賞する。 ただし、登山は時間の関係もあり5合目付近まで。	秋田発 40名 盛岡発 40名 計80名	37名 24名 計61名
3	初夏の秋田駒ヶ岳登山と治山施設見学 (治山施設)	7月21日 (土) 秋田県 仙北市	コマクサ、ニッコウキスゲ等が咲き誇る秋田駒ヶ岳を登山するとともに、当局が工事を施工した治山施設を見学し、国有林が行っている事業、国民生活に対する安全対策等について理解を深める。	秋田発 40名 計40名	44名 計44名
4	紅葉の「温身平」で森林セラピー体感 (森林セラピー基地)	10月13日 (土) 山形県 小国町	森林セラピー基地（全国18カ所）に認定されている「温身平」でセラピーロード等を散策し、森林のもつ癒し効果を体感する。 また、越後街道十三峠のひとつ「黒沢峠」を散策し、歴史の雰囲気味わう。	山形発 40名 計40名	36名 計36名
5	紅葉の津軽十二湖散策 (レク森・自然休養林)	10月27日 (土) 青森県 深浦町	十二湖自然休養林内の紅葉を楽しみながら「青池」や「湧壺の池」などの湖沼を巡る。 また、「日本キャニオン」の景色を楽しむ。	秋田発 40名 青森発 40名 計80名	33名 6名 計39名

(1) プログラム

緑の山歩塾では森林とのふれあいに加え、当局が実施している各種施策（下線の部分）の紹介や見学に重点を置くこととし、①月山ブナ林施業公園、②早池峰山周辺森林生態系保護地域、③秋田駒ヶ岳周辺の治山施設、④温身平森林セラピー基地、⑤十二湖自然休養林、について、紹介し見学してもらいました。

(2) 募集定員と募集方法

募集定員は各出発地40名を基本に募集し、多数の場合は抽選としました。これは、大型バス1台分の乗車可能人員を元に、当日対応するスタッフ数などを勘案して決めまし

た。

募集は、①局ホームページへの掲載、②各開催県の県庁記者クラブへのプレスリリース、③林政記者クラブへのプレスリリース、④開催県の県庁所在地の市の広報への掲載、⑤ミニコミ誌への掲載、⑥地方紙各社への直接の掲載依頼、⑦平成18年度森林倶楽部会員へのイベント計画通知（森林倶楽部の見直しの連絡を含む）等で行いました。

市の広報では「イベント開催場所が市外であれば掲載できない」、「イベント情報の掲載そのものを行っていない」などの話をされましたが、前者には「市民のみなさんに是非参加してほしい」旨を強調してなんとか掲載してもらい、後者からは地元のミニコミ誌を紹介してもらう等、配慮してもらいました。一方で地方紙については、掲載してもらえないことが多く課題を残しました。行き先や内容等の問題もあると思われますが、局が直接参加者を募集するというのもあって、秋田県以外で開催する場合は、「県外の事業者（企業）が行うイベント」と捉えられたのではないかと思います。改めて、調整も含め効率的なPRが必要となっています。

なお、参加希望者からは、はがきにより受付を行いました。

(3) 参加状況

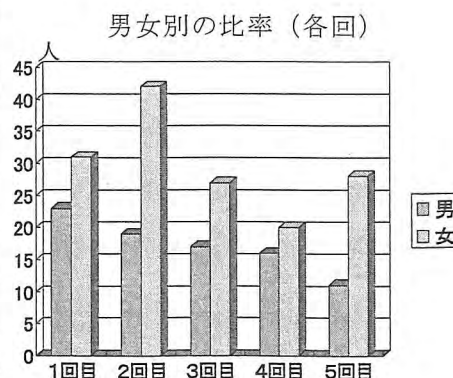
参加状況は表3のとおりです。出発地の関係で秋田県内の参加者が148名（63%）を占め、次いで山形県内の参加者が47名（20%）となっています。その他は昨年度まで森林倶楽部会員だった方です。

平成18年度森林倶楽部で実施した5回のイベントの延べ参加者数は335名で、それと比較すれば100名ほど減少していますが、これは参加者を絞った結果であると同時に、参加者募集がうまくいかなかった部分が結果に現れたといわざるを得ません。

男女の比率は、全体で男性が86名（37%）、女性が148名（63%）となっています。

[表3] 緑の山歩塾の参加状況

回数	1回目		2回目		3回目		4回目		5回目		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
青森	0	2	0	1	0	2	0	2	2	3	2	10	12
岩手	0	0	5	16	0	0	0	0	0	0	5	16	21
秋田	15	19	13	25	17	23	2	2	8	24	55	93	148
山形	8	9	0	0	0	1	14	15	0	0	22	25	47
その他	0	1	1	0	0	1	0	1	1	1	2	4	6
計	23	31	19	42	17	27	16	20	11	28	86	148	234



(4) 参加者の年齢

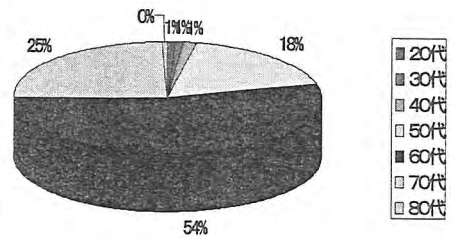
参加者の年齢は表4のとおりです。男性は60～70代に集中し、女性は60代が6割を占めました。相変わらず中高年の活発さが目立っています。

なお、参加者の最高齢は80歳（男性）、最年少は26歳（女性）となりました。

[表4] 性別及び年代別数

性別	0~10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
男	0	1	0	0	9	37	38	1	86
女	0	1	2	3	33	89	20	0	148
計	0	2	2	3	42	126	58	1	234

参加者全体の年代比率



(5) 参加申込者及び新規参加者の割合

参加申込者及び新規参加者の割合は表5のとおりです。募集定員320人に対し参加申込者数は396人となりました。地域によりアンバラがありますが、応募者多数のところは抽選で決定し、最終的な参加人数は234人（抽選で確定した人数は256人）となりました。このことから、参加できる倍率は1.7倍（1.5倍）となりました。

また、森林倶楽部（平成18年度）に参加したことの無い人で今回緑の山歩塾に参加した人は132人となっており、新規参加者の割合は56%となりました。

※第3回イベントを除き、それぞれの出発地において定員を超える場合は定員数を、定員に満たない場合は参加申込者全員を参加させることにしていましたが、直前のキャンセルにより参加者は234人となっています。

[表5] 参加申込者数及び新規参加者数

行先	出発場所	定員数 (人)	申込者数 (人)	参加者数 A (人)	新規参加者 B (人)	新規参加率 B/A (%)
月山 ブナ林	全体	80	76	54	18	33
	秋田	40	58	36	6	17
	山形	40	18	18	12	67
早池峰山	全体	80	141	61	46	75
	秋田	40	113	37	25	68
	盛岡	40	28	24	21	88
駒ヶ岳	秋田	40	44	44	24	55
温身平	山形	40	52	36	23	64
十二湖	全体	80	83	39	21	54
	秋田	40	77	33	19	58
	青森	40	6	6	2	33
計		320	396	234	132	56

4 まとめ

会員制の森林倶楽部と一概に比較できませんが、森林倶楽部（平成18年度）の新規登録会員の割合が23%であり、緑の山歩塾の新規参加者の割合が56%となったことからすれば、新規参加者を増やすという目標はある程度クリアできたと思っています。また、当局が実施している施策の紹介や見学等により、国有林を知ってもらい、なおかつ国有林野事業の必要性や重要性についてPRできたものと考えています。

一方で、今後改善すべき課題も明らかになりました。①国有林の施策の紹介、見学について、さらなる内容の充実を図ること、②直前のキャンセルへの対策の検討、③参加者募集時における広告、PRの強化、④参加者の地域的均衡を図るため、開催地及び出発地の検討、⑤若年層でも参加したくなる魅力あるコース設定、⑥新規参加者のさらなる掘り起こし、などです。

平成20年度の緑の山歩塾の実施に当たっては、これらの課題の解消も含め、計画したいと考えています。

緑の山歩塾は、局指導普及課が中心となり、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターや津軽白神森林環境保全ふれあいセンターの協力を得て実施し、一部、局の森林インストラクターにも手伝ってもらいました。このほか、開催地を管轄する森林管理署等には、事業の説明者として協力してもらいました。

参加者からは「緑の山歩塾はスタッフが安全・安心をキーワードに参加者を大切にしてくれる。まさに安心して参加できる」、「国有林の仕事がわかった気がする」との声が出されるなど、たいへん好評のうちにイベントを終了することができました。

民間では効率ばかりで安全なサービスが提供できない場合があるようですが、東北森林管理局は今後とも参加してくれる全ての方々が安心して楽しみ、喜んでもらえるようなふれあいの場の提供と、国有林野事業の施策等を紹介しながら「国有林があって良かった」と言われるようなイベントの実施に努めて参りたいと考えています。



【月山ブナ林施業公園 ブナの説明】



【早池峰山 小田越登山口で】



【秋田駒ヶ岳 治山施設の説明】



【温身平 コース案内板の前で】



【十二湖 日本キャニオンで】